



特集

清恵会グループ、40周年記念対談

- 医心伝心 ～医の最前線から～
- ナースフェイス 素顔の看護部
- 家庭で役立つ! お薬の知恵袋
- 気軽にお体メンテナンス 早期のチェックで病気にチャック!
- シリーズ清恵会三宝病院 回復期リハビリテーション病棟
- 清恵会医療専門学院だより 地域医療の未来を支える若き力
- 清恵会グループ通信 清恵会向陵クリニック



理事長
佐野 記久子



清恵会病院 院長
北岡 治子



インタビュー
片山 三喜子

2010年7月15日、創立40周年を迎えた清恵会グループ。創業時から、その歴史を育んできた佐野記久子理事長と、今春、清恵会病院院長に就任された北岡治子院長に、これまでの歩みや今後の取り組みについて語っていただきました。

多様化する医療ニーズに対応する6つの事業

片山三喜子さん(以下、敬称略) 清恵会グループの創立40周年、お

めでとうございます。まず理事長、今のお気持ちはいかがですか。佐野記久子理事長(以下、敬称略) 過ぎてしまうと短く感じますが、40周年を記念して振り返ると、計り知れない感慨深さがあります。片山 院長はいかがですか。北岡治子院長(以下、敬称略) 清恵会病院に着任して10年目の節目に40周年を迎え、この記念すべき年に院長に就任させていただきましたことに使命を感じます。次の時代へ、創業時から続いている伝統をしっかりと受け継いでいきたいと

気持ちを新たにしています。佐野 私も院長も女性ですので、きめ細やかな視点も大切にしていきたいと考えています。片山 なるほど。ところで、創立された1970年は大阪万国博覧会が開催され、その後、日本の社会は大きく様変わりしてきました。この間、清恵会グループも6つの事業を展開してこられました。その特徴について、お話しいただけますか。佐野 時代に応じた医療環境の整備を進め、また患者様の医療

特集

地域の皆さまが安心して暮らせるために。救急医療から

在宅看護まで、一貫して提供し続ける

清恵会グループ、

40周年記念対談



ニーズに応えることを使命と考え、2つの病院、2つのクリニック、訪問看護ステーション、医療専門学校、6つの事業で展開して参りました。

片山 医療の専門学院まで展開されているんですね。

佐野 創設者の佐野恵は教育に対する意識が高く、清恵会独自の医療人を育てたいという思いを抱いていました。専門学院を設立したのは、その思いの表れです。これまで多くの卒業生が、当法人はもろろん全国の医療機関で活躍しています。

片山 グループの中核である清恵会病院は、救急病院から発足されたとお聞きしていますが。

佐野 その通りです。現在も清恵会病院では、救急医療を中心に整形外科・内科の専門外来、急

性期医療機能病院としての体制を整えています。さらにMRIや三次元ヘリカルCT装置などの先進機器を整備するとともに、大学との連携を強化するなど、特殊な専門疾患にも対応できる診療体制の充実を図っています。

地域の市民が安心して暮らせる医療体制を整備

北岡 救急医療から在宅看護まで一貫して行う病院はたくさんありますが、清恵会では遠方への転院がありません。堺市内ですべてを整えている地域密着型であることも特徴です。

片山 患者の立場で考えると、住み慣れた土地で医療が受けられることはありがたいことですね。さて、清恵会のホームページを見ますと「大阪外傷マイクロサージャリーセンター」「専門性を活かした総合内科」「24時間対応のER」の項目が目につきましたが…。

北岡 患者様に当グループの特徴を分かりやすく伝えることを考えた結果、この3つを前面に出すことになりました。「大阪外傷マイクロサージャリーセンター」は手指切断から血管や神経の損傷

まで、手術用顕微鏡を使った微小外科手術を行っています。「専門性を活かした総合内科」というのは、各診療科別による縦割りの診療体制ではなく、一人ひとりの医師が患者様を総合的に診察することを表現しています。そのため、主治医を中心に各専門医が密接な連携を図り、専門的な疾患にも柔軟に対応できる体制を整えています。創業当時から取り組んでいる「24時間対応のER」については、現在、年間5500件以上の救急車搬送があり、独立歩来院を合わせると、年間約3万人もの救急患者様を受け入れています。そのため、ER担当医師が各科専門医と連携を取り、夜間も約5名の医師が当直している体制を整えています。

片山 まさに、「まごころと、思いやりの24時間」を体現した診療体制ですね。これは、地域の患者にとって心強いですね。

佐野 昔は救急病院が少なく、患者様がたらい回しにされることが多くありました。創設者はそうした状況を無くすため、救急医療に特化した病院の開設に踏み出したのです。本人がよく「人の命は地球より重い」と話していたこ

とを覚えています。

かかりつけ医を持つことが安心の第一歩

片山 ここで、生活者の代表として質問をさせていただきます。実は、私は約2年前に乳がんを患いましたが、かかりつけ医を持っていなかったために、大変困った経験があります。突然の病のためにも、かかりつけ医を持っていた方が良いのでしょうか。

北岡 かかりつけ医を持っていることは重要です。体に異変が生じた場合は、まず、かかりつけ医に中堅病院を紹介してもらって、検査を受けるのが良いですよ。大きな病院は紹介状が必要ですし、待ち時間や検査の結果が出るまで長い時間を要することもあるため、患者様にとってストレスになります。当院では、MRI、CT、内視鏡などほとんどの検査が、受診から1週間以内で結果が分かる体制を備えています。また院内には地域医療連携部を設置しており、地域の医院や診療所との密接な連携を取っています。ちなみに、堺市は人口約80万人の政令指定都市ですが、医師会は1つなの

で医師や医療機関同士の結びつきが強いエリアです。

理事長を代行した時がターニングポイントに

片山 創設者のモットーが、「いつでも、どこでも、どなたでも」とお聞きしていますが、清恵会グループの随所に、その思いが息づいていますね。

理事長 夫である創設者は文字通り、寢食を忘れて、医療に取り組んでいました。でも、頑張り過ぎたのでしょね、体調を崩して実務が出来なくなりました。そこで、私が理事長を代行することになりました。振り返ると、この時が私のターニングポイントだったと思います。その3年半後、理事長に就任しましたが、その頃から日



本の国家財政が貧し、医療費の抑制など医療制度の大改革が始まってきました。

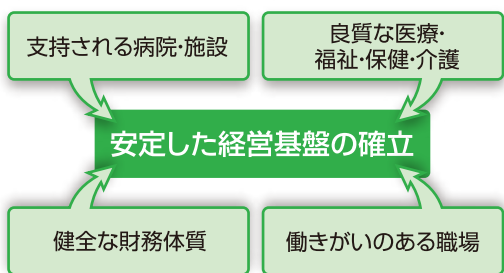
北岡 これまで国民皆保険のもとに比較的補償されていた医療制度も、今では高齢者も含めて個人負担が増えています。一方で、より専門性を求めるなど患者様の医療に対するニーズが変化しています。こうした時代の変化に対応するため、病院は経営を見直す時期に入っています。

高い評価を受けたことを真摯に受け止めて

片山 この度、日本医療機能評価機構（バージョン6）の認定を受けられたそうですね。

北岡 2009年末に審査を受けるにあたり、問題点を抽出し、その改善によって医療の質をさらに向上することができました。この認定の結果は、すべての職員にとって大きな自信に繋がったと思います。今後は、基幹型臨床研修指定病院として、医師をはじめ診療スタッフの指導にもさらに力を注ぎたいと思っています。たとえば、経験の豊富な医師が若い医師に教えることは、互いのレベルアップ

■清恵会グループのビジョン



に繋がり、院内の活性化を図ることもできます。これは、高度で多様化した医療ニーズに応えるチーム医療において、欠かすことのできない取り組みだと考えています。

片山 40周年を迎え、現在、理事長が描く将来像もお聞かせいただけますか。

佐野 急性期機能病院である清恵会病院の設備が老朽化しています。そこで、十分な医療機能の提供と職員にとって働きやすい職場環境の整備が急務であると判断して、5年以内の完成を目指して、施設の建て替えを計画しています。その実現のため、足元の経



インタビュー 片山 三喜子

乳がんを患ってから、医療に関心を持ち始める。その経験と独自の視点から、今回のインタビューを担当。放送局勤務。



清恵会病院院長 北岡 治子

日本内科学会総合内科専門医をはじめ数々の資格を持つほか、糖尿病に関する著書も手がけるなど、幅広く活動している。大阪医科大学卒業。



理事長 佐野 記久子

1970年の創業当時から財務を担当する。1985年理事長に就任、現在に至る。

営の安定化を保ちながら、マラソンランナーのようにゴールへ向かって、一歩ずつ着実に進んでいきたいと思っています。

片山 本日はさまざまなお話をお聞きし、清恵会グループは、地域の方々、そして職員のことを大切にされる理想的な病院であることを実感いたしました。私も今後の展開を楽しみにしています。

🏠 私たちがサポートします。
ナースフェイス

～素顔の看護部～

看護師の仕事のやりがいとは？

やはり、患者様の症状が軽快になり、安堵感のある笑顔を見た時ですね。私は、自分の体を動かしながら患者様と関わることが楽しくて、看護師になりました。今も、呼吸器を離脱する、手術後の患者様が退院するなど、看護のさまざまな場面でやりがいを実感しています。

コミュニケーションの大切さを実感する瞬間は？

ご家族の質問や今後の予定を聞き取り、主治医や地域連携室など院内のスタッフと協力してうまく援助できた時ですね。また、言語障害のある患者様のADL(日常生活動作)の介助ができた瞬間も実感します。患者様の意思を的確に読み取ることができた時は、心が通じたと感じます。

普段から心がけていることは？

納得の入院生活を送っていただくために、患者様やご家族の質問は必ず医師に報告し、返答するなど、接遇を確実にすることです。また、私は病棟のリスクマネージャーなので、業務改善やスタッフ指導のために、日々院内のリスクレベルの情報を収集するように心がけています。



中2階病棟 安圖 哲子さん

Profile
 1994年に入職。臨床指導者。趣味は映画鑑賞。リフレッシュの方法は、「家族と過ごす時間です」。



清恵会病院 副院長 整形外科部長 坂中 秀樹

Profile
 1958年生まれ。大阪市立大学を卒業後、同大学院、関西労災病院等を経て、'99年に整形外科部長として当院へ赴任。日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医の資格を持つ。大阪市立大学大学院非常勤講師も兼務。'10年4月、当院副院長に就任。

🎧 **医伝心** #01
 ～医の最前線から～

微小外科手術の専門技術と、
 人とのつながりを基盤に、
 より良い医療の実現を図る。

— 専門分野を究めつつ、
 整形外科全体を統括

当院の整形外科は、脊椎脊髄外科、手の外科、スポーツ整形外科の3つの専門領域で構成され、救急部門で血管や神経の損傷を専門的に扱う「大阪外傷マイクロナージャリーセンター」を有しています。センターは、臨床用3台、研修用5台の顕微鏡を完備しており、民間病院として大阪府下では屈指の医療体制だと自負しています。

充実した体制のもと、整形外科では年間約1200件の手術を行っています。手術のほとんど

は、顕微鏡や関節鏡(内視鏡など)専門の器械を使った小侵襲手術です。小侵襲の手術は、傷口が小さいため身体への負担が軽く、早期の社会復帰が可能です。

私自身は、脊椎脊髄外科と外傷整形外科を専門としつつ、個人的にはイリザロフ創外固定というロシアの外傷治療法を約15年にわたって行ってきました。私は整形外科部長を務めています。年間約150件の脊椎脊髄手術と外傷手術を手がけるなど、今も臨床現場に立っています。小侵襲脊椎手術の手術範囲は、2cm×3cmとごく微小です。繊細で熟練の技術が求められるため、研修医をはじめ後進の育成も大切な役目だと考えています。

— オフには趣味を楽しむ
 一人の人間になる

臨床現場では、救急や一般外来、病棟など諸部門とのチームワークが必要です。そのため大切なのは、コミュニケーションを磨くとともに、さまざまな人々との交流を持って互いの理解を深めるようにと話しています。

診療でも、患者様とお互いの立場を越えて何でも話せる関係が

不可欠です。私も診療の際は、趣味の話や世間話を交えながら患者様の気持ちを和らげるよう努めています。

私は、焼鳥が好きで、オフには趣味の釣りや野球を楽しんでいる一人の人間です。実際に、休日は和歌山など近海へ船釣りに出かけ、また大阪市立大学整形外科野球部の監督兼選手としてグラウンドに立っています。チームワークを重視するのは、野球の影響かもしれません。困難な手術が成功した時と同様に、医療チーム全員で良い仕事をやり遂げた時は嬉しいものです。

私は、医師が気持ちに余裕を持つことが、より良い医療につながると思っています。心のゆとりという意味の「遊び心」と向上心を持ち、日々真摯に医療と人生に向き合っていきたいと思っています。



看護師になろうと思ったきっかけは？

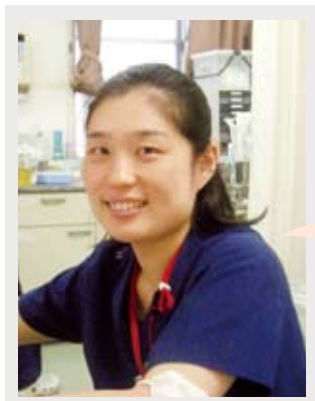
人と触れ合う仕事をしたかったので、看護師になろうと思いました。看護師は、患者様に付き添い、回復する過程を共有できる仕事です。今でも、足の状態が悪い患者様が歩くことができるようになる、元気に退院される姿などを見ると、この仕事を選んで良かったと実感します。

仕事の中で特に思い出に残る出来事は？

以前に勤めていた病院に入院していた患児のお母様から、退職後にわざわざお手紙をいただいたことです。患児の担当ではなかったにも関わらず、私のことを覚えていてくれて、その後の患児の成長を教えてくださいました。今でも、患者様と深く関わることができた時は嬉しいです。

今後、目標にしていることは？

実は、救急外来に異動して間もないので、救急外来に必要な看護の知識と技術を身につけることが今の目標です。「何事にも努力を惜しまない」をモットーに努力し、また患者様や院内の医師・スタッフなど相手の思いに沿える言葉のかけ方を考えながら、成長していきたいと思っています。



救急外来 中辻 哲水さん

Profile
 2007年入職。臨床指導者。最もリラックスできる瞬間は、「わが子と一緒に寝ている時です」。



回復期リハビリテーション病棟

開始から家庭復帰後まで、一人ひとりのリハビリをトータルにサポート

当病棟は、60床の入院施設を備えているほか、快適で専門的なリハビリ環境を整えています。主に1室4人の入院部屋では、ほぼ2部屋に1室のトイレを完備しています。医療スタッフが見守る中で、安心して食事を楽しんでいただける食堂談話室は、車椅子でもスムーズに移動できるように広々としたスペースを確保。面会者の方とのくつろぎの場としても、利用していただいております。専用の機器が揃うリハビリ室は、集中してリハビリに取り組むこ



日常生活指導風景

退院後を見すえたケアも充実しています。当病棟では、ご自宅での生活動作確認や行動練習を行う自宅訪問リハビリを行っています。また、家庭に復帰した後にも継続的にリハビリサービスを受けられるように、訪問リハビリやデイサービス、清恵会グループの訪問看護ステーションの紹介を行っています。このように、自宅改修や福祉資源活用の検討を含め、入院前から退院後までトータルなサポートを提供しています。



シリーズ 01 清恵会三宝病院

充実のプログラムと設備で、快適なリハビリ生活を提供

清恵会三宝病院の回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折等の患者様に対する回復期リハビリテーションを行っています。回復期リハビリテーションとは、寝たきりの防止や家庭復帰を目的に、食事や更衣、排泄、移動、会話といったADL(日常生活動作)の能力を高める集中的な訓練のことです。

とができる環境です。また、家屋内を想定した日常生活指導室も設置しており、実際の生活に近い環境で、実践的なリハビリに取り組むことができます。リハビリだけでなく、生活リズムの確立・生活の楽しみ運動時間の増加・身体機能の発揮を目的に、屋上ガーデンや定時レクリエーションなど独自の活動も行っています。



レクリエーション風景

家庭で役立つ! お薬の知恵袋

薬の袋に書かれている 食前・食後・食間っていつ飲めばいいの?

お答えします



薬には、薬効を最大限に引き出すための飲み方が定められています。これを服用方法といい、食前・食後という指示は服用時間といえます。たとえば、薬の袋に「1日3回、1回1錠、毎食後」とある場合は、朝・昼・夕の食後に1錠服用します。服用の方法や時間には理由がありますので、きちんと守って服用してください。食前・食後・食間とは、下記の時間のことです。

食後	食事のおよそ30分後に服用します。空腹時よりも、胃が荒れる等の副作用が少ないのが特徴で最も一般的に用いられている服用時間です。
食間	食事のおよそ2時間後に服用します。主に、数種類の薬を同時に服用する際など、体内で薬同士が吸着して薬効を減弱させる可能性のある場合に用いられます。
食前	食事のおよそ30分前です。消化管運動と連動した症状や食後では薬効が減弱する場合に用います。食前だと効果が早く現れる薬は、下記の食直前に服用します。
その他のお薬の服用時間	食直前：食事のすぐ前に服用 寝る前：就寝のおよそ30分前に服用 食直後：食事のすぐ後に服用 頓服(とんぷく)：必要に応じて服用



早期のチェックで病気にチェック!

気軽に心電図検査

第二回ホルター心電図検査

日常生活における心臓の動きを記録

ホルター心電図検査とは

ホルター心電図検査とは、24時間の心臓の動きを心電図に記録する検査です。血圧の日内変動を同時に記録する場合もあります。この検査によって、心疾患の自覚症状、心電図変化の関係、不整脈や心筋虚血の有無などが分かりやすくなります。また治療薬の服用効果やペースメーカーの作動を確認することもできます。

検査や記録は、どのように行うの?

上半身の衣服を脱いで胸部の5カ所に電極を付けた後、小型の心電計をペンダントのように首から提げて装着します。あとは、普段の生活を送りながら、行動記録カ-

ドに生活内容(食事、就寝、起床、トイレ等)を記入するだけです。自覚症状(胸痛、動悸等)があった場合は、その時間と内容も記入します。検査時間は基本的に24時間で、機器を装着した24時間後に再び来院していただき、取り外します。検査機器の装着や事前説明等の時間は、約15分~20分です。機器の取り外しは、5分ほどです。

検査施工時の注意事項

検査の際は、前開きの服か上下が分かれている服で来院してください。機器の取り扱いは十分注意し、胸部にはあまり触れないでください。特に主治医の指示がなければ、機器の装着中も運動や食事の制限はありません。入浴も可能ですが、体を洗うことはできません(洗髪は可能)。また雑音で記録が妨げられるため、電気毛布や電気アンカの使用は遠慮していただきます。



清恵会向陵クリニック



通院での血液透析を 確かな技術でサポート

当院は腎不全の専門治療施設です。集合透析設備を完備し、透析器を介して血液と接触する透析液は、常にクリーンな状態を維持しております。透析療法の分野での着実な実績のもと、腎不全患者様の社会復帰を支えています。

透析室

- ・ A剤溶解装置、B剤溶解装置 各1台
- ・ 透析ベッド 59台
- ・ 患者監視装置(コンソール)59台
- ・ 逆浸透水処理装置1台
- ・ 多人数用透析液供給装置(40床用)2台
- ・ スケールベッド6台
- ・ 車椅子対応体重計設置

24時間、 緊急対応可能

当院は、併設する清恵会病院との連携体制を確保しております。体調急変などの緊急時にも、24時間体制で対応することができます。



夜間透析を 行っています

当院は、22時30分まで透析可能な夜間透析を行っており、仕事をお持ちの患者様も通院しやすい環境です。受付は、18時までです。



来院、帰宅時の 送迎が可能

当院は、サービスの一環として車での送迎を実施しています。病状に応じて、車イスやストレッチャー対応の車両もご用意しています。



地域連携室より

院内健康管理教室に参加してみませんか

当院では、市民の皆様へ、健康への正しい知識を深めていただく機会として、院内健康管理教室を開催しています。自らの健康保持・増進のため、少しでもお役に立てる内容となっておりますので、お気軽にご参加ください。

日時：平成22年7月24日(土) 15:00~16:30
場所：清恵会本部ビル3階大会議室
テーマ：「目の病気を全般的について」
講師：眼科部長代理 小林 正人
対象者：一般市民の皆様

参加費
無料

お申し込みは、
清恵会病院 地域連携室 **TEL.072-251-8199** (内線1413)までご連絡ください

地域医療の未来を支える若き力 清恵会医療専門学院だより

ご紹介とご挨拶



清恵会医療専門学院
清恵会第二医療専門学院
学院長 宮崎 瑞夫

清恵会医療専門学院は、医療法人清恵会が掲げる医療の理念を、母体である清恵会病院で実践できる優秀な医療人を育成するために開設されました。1975年に看護師育成コースを、1977年には清恵会第二医療専門学院として理学療法士と放射線技師の育成コースを開設し、創立40年

を迎える清恵会病院で培われた臨床の豊富な経験と知識を伝授しています。何より本学が誇れるのは、各科に共通する高い国家試験合格率です。輝かしい伝統のもと、卒業生は、清恵会病院をはじめ全国各地の医療機関や福祉施設の部門で活躍しており、高い評価を受けています。今、医療の世界は高齢化社会を迎え、医療に対する期待はますます高まっています。その内容は多様化し、高度化し、かつ複雑化が進んでおり、臨床現場では高い技術、知識、人間性に優れた医療人が強く求められています。また、医



師、薬剤師のみならず看護師、理学療法士、放射線技師など医療関係の職種に対する現場からの要望は増加の一途を辿っています。本学院は、これらの要求に応えるべく、専門職として、より高度で新しい知識・技術の伝授を行うとともに、豊かな人間性を育む教育を目指しています。優れた教育スタッフによるきめ細かな教育、少人数定員・小グループによる実習などを基盤とした行き届いた教育指導を行っており、これが非常に高い国家試験合格率につながっています。また、人との付き合い

学院概要

清恵会医療専門学院
第1看護学科(40名)
第2看護学科(40名)
准看護学科(40名)

清恵会第二医療専門学院
理学療法士科(20名)
放射線技師科1部(30名)
放射線技師科2部(30名)

を大切にしよう常に指導に努めています。その中で、本学は他学科の学生との密接な交流も図っています。これは学生が将来、実践の場で遭遇する専門職同士によるチーム医療に有益なことは論を待たせません。母体の清恵会病院を理想的な実習の場とするだけでなく、学んだ知識の実践の場と位置づけ、優れた医療人を輩出し、更なる歴史を積み重ねていく所存です。



Student's voice!

毎日が大変ですが、日々成長を実感しています。



井端 悠加里 さん 清恵会第二医療専門学院 理学療法士科2年

学院は、1クラス20名と少人数で学びやすく、専門の知識や技術に加えて医療人としてのルールや精神面も丁寧に指導していただけます。先生は卒業生の方が多く、学生の立場に立って親身に相談にのってくれるので、心強いですね。また先輩方やクラスメイトも優しい人ばかりで、互いに支え合いながら学んでいます。勉強は大変ですが、このような良い環境で専門の知識と技術を学ぶことに感謝し、日々成長していきたいと思っています。

<http://gakuin.seikeikai.or.jp>

清恵会グループのご紹介

地域の皆様に愛され信頼される
医療の提供を目指して

+ 清恵会病院

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町4丁2番10号

TEL 072-251-8199

通院での血液透析を確かな技術でサポートします
〔送迎車両完備!〕

+ 清恵会向陵クリニック

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町6丁2番11号

TEL 072-251-8199

地域の在宅看護とリハビリテーションに
真心をこめてサービス提供

+ 清恵会訪問看護ステーション

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町4丁4番4号

TEL 072-257-6074

血液透析とリハビリテーションが充実した
医療療養型病院です

+ 清恵会三宝病院

〒590-0903 大阪府堺市堺区松屋町1丁4番1号

TEL 072-226-8131

内科・整形外科の各専門医が
専門的知識と技術で診療を行います

+ 清恵会三国丘クリニック

〒590-0024 大阪府堺市堺区向陵中町6丁4番10号

TEL 072-251-8199

国家資格、免許取得率の高さが証明
病院との連携でスキルUPが望めます

+ 清恵会医療専門学院

〒591-8031 大阪府堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地

TEL 072-259-3901

+ 清恵会第二医療専門学院

〒590-0026 大阪府堺市堺区向陵西町4丁5番9号

TEL 072-222-6226

清恵会グループの最新情報が満載

清恵会病院の受診・入院案内から、清恵会グループの各種情報まで掲載しています。
また、耳より情報や採用情報、医療専門学院情報もコチラをご覧ください。



専門性を活かした総合内科



受診のご案内



耳より情報

清恵会

検索

<http://www.seikeikai.or.jp>